

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

私立大学図書館の経営

2008/7/10

鈴木正紀
(文教大学越谷図書館)
suzuki@lib.bunkyo.ac.jp

1

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

本日の話題

1. 私立大学図書館の活動基盤の現状
2. 私立大学図書館の経営資源
3. 一私立大学図書館の現状と課題

2

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

- 現在大学における図書館など情報基盤の扱いは、二つの考え方に分化しているように見える。図書館・情報基盤を強化しようとする方向と、逆にそうした部分への支出を抑えようとする対応である。端的にいえば、前者は学習環境や教育研究基盤の充実を配慮したものであり、後者は資金獲得のような直接的な貢献を重視した資源の配分である。もちろんそれぞれの大学はこの両極のどこかに位置するのだが、基本的にはどちらかに偏るとみることができる。
- 文部科学省『先導的大学改革推進委託事業』今後の「大学像」の在り方に関する調査研究（図書館）報告書—教育と情報の基盤としての図書館—平成19年3月 筑波大学
<http://www.kc.tsukuba.ac.jp/div-comm/pdf/future-library.pdf>

3

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

1. 私立大学図書館の活動基盤の現状

4

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

大学をめぐる状況：全入時代を迎えて(1)

- 「定員割れ」の現実化
 - 4割が定員割れ(入学定員数の増加/志願者数・入学者数の減少)
 - 閉学するところも出現
 - 短期大学、4年制への転換
 - 志願状況における二極化
 - 大学規模における二極化
 - 大都市圏/地方における二極化
 - 18歳人口のピークは1992年
 - 1991年に「大学設置基準」大綱化(⇒事前規制から事後チェックへの転換)
 - 当時の規制緩和の波に文科省は抗しきれなかった?

5

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

定員割れの現実

18歳人口と入学定員数、全志願者数の推移予測

年	18歳人口 (万人)	入学定員数 (万人)	全志願者数 (万人)	進学率 (%)	取容量 (%)
'03	145	70	85	50	80
'04	140	65	80	48	78
'05	135	60	75	46	76
'06	130	55	70	44	74
'07	125	50	65	42	72
'08	120	45	60	40	70
'09	115	40	55	38	68
'14	110	35	50	36	66

日経進学naviより

6

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

大学をめぐる状況: 全入時代を迎えて(2)

- 黒船？
 - 東京地区私立大学進学懇談会(読売新聞西部本社、KKTくまもと県民テレビなど主催、九州・山口各県教委後援)が6日、熊本市のホテル日航熊本で開かれ、受験生や保護者ら約500人が訪れた。
 - 44大学が参加し、うち20大学はブースを設け、学部・学科の特徴や卒業後の進路、カリキュラムなどについて、担当者が受験生や保護者に説明していた。他の大学は入学案内や入試問題を無料配布した...(読売新聞、2008/6/7)

7

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

大学をめぐる状況: 全入時代を迎えて(3)

- 財政基盤は？
 - 学納金依存体質(収入の7-8割)
 - 格付け取得による外部資金調達体制の整備
 - (文科省)私学助成についての支給基準の見直し(定員割れを放置しているところに厳しく)
- 大学ごとの戦略
 - 私/私 の合併
 - 慶應義塾大学 & 共立薬科大学、関西学院大学 & 聖和大学
 - 国立/私立連携による大学院の設置
 - 早稲田大学 & 東京農工大学 (2008/6/25, 朝日新聞)
 - 私学はなかなか難しい(それぞれの大学に固有の歴史、理念・文化の相違)
 - 大手による系列化、中高の付属化(囲い込み)

8

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

「赤字大学」

年度	大学法人			
	計	0%以下	同割合	-20%以下
4年度	357法人	17法人	4.8%	2法人
5年度	363法人	24法人	6.6%	2法人
6年度	378法人	17法人	4.5%	4法人
7年度	385法人	20法人	5.2%	4法人
8年度	393法人	24法人	6.1%	3法人
9年度	399法人	28法人	7.0%	4法人
10年度	409法人	31法人	7.6%	6法人
11年度	418法人	37法人	8.9%	7法人
12年度	435法人	69法人	15.9%	8法人
13年度	456法人	109法人	23.9%	25法人
14年度	469法人	124法人	26.4%	37法人
15年度	482法人	121法人	25.1%	33法人
16年度	495法人	123法人	24.8%	30法人
17年度	504法人	138法人	27.4%	25法人

『私立学校の経営革新と経営困難への対応: 最終報告』

9

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

大学をめぐる状況: 全入時代を迎えて(4)

- 「入」と「出」の重視 「中身」は？
 - 近年、一部の有力校以外で“元気のある大学”は、学生の就職支援に力を入れたり、ユニークな講義を実践したりと、特色ある教育研究で「個性」を発揮しているところが多い。人文学部の新設で即効性を期待するより、まずは「大学の質」を高め、学生や企業にアピールするブランド力を身につけるとい、地に足のついた改革が求められている。(読売新聞 2006/7/26)

10

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

私立大学図書館をめぐる状況

- 業務委託の拡大
 - 一部委託(閲覧・整理等)
 - 2005年度 国立:69.0% 私立:68.5%
 - 全面委託の増加(国立:0% 公立:3.2%(4館) 私立:2.3%(22校))
 - 人的資源(専任職員)確保の困難
 - 業務継承の困難
 - 全国レベルでの政策立案, 調整機能(図書館団体)の弱体化
 - 図書館(界)の担い手(コミュニティ)の非在

11

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

大学図書館職員の人員構成(専任/臨時)

年度	国立		公立		私立		全体		総数
	専任	臨時	専任	臨時	専任	臨時	専任	臨時	
2006	50.2	49.8	51.1	48.9	49.0	51.0	49.5	50.5	13,283
2005	52.2	47.8	50.2	49.8	48.1	51.9	49.4	50.6	13,770
2004	52.0	48.0	53.3	46.7	52.1	47.9	52.1	47.9	13,578
2003	54.4	45.6	57.2	42.8	55.2	44.8	55.1	44.9	13,320
2002	55.6	44.4	60.4	39.6	56.1	43.9	56.2	43.8	13,475
2001	56.7	43.3	61.6	38.4	57.4	42.6	57.5	42.5	13,664
2000	57.6	42.4	62.3	37.7	58.4	41.6	58.4	41.6	13,712
1999	59.0	41.0	63.7	36.3	59.9	40.1	59.9	40.1	13,545
1998	59.0	41.0	68.5	31.5	62.4	37.6	61.8	38.2	13,390

(大学図書館実態調査/学術情報基盤実態調査より)

12



- Bunkyo Univ. Koshigaya Library
- ### 業務委託で発生していること
- 労働派遣法で指示されている派遣と請負(業務委託)の違いについて、適正に認識していないところがある(大学)
 - 要員確保が難しく、また定着しない(会社)
 - 最近では委託市場に参加する人間が私底下状態とも(某関係者)
 - 受注しても来年の保証がない(会社・就業者)
 - 生活に追われ、キャリア設計ができない(就業者)
 - 委託業者の切り替えで業務説明に追われている(大学)
 - 図書館職員と委託スタッフ間でコミュニケーションが十分取れていない(大学・就業者)
 - 職員数の減少あるいは世代継承の問題を抱えている図書館、業務委託にどう向き合うか?
 - 受託会社のほうが心配している? 「お宅の大学はそんなに大丈夫なんでしょうか? ほんとうにいいんですね、委託しちゃって!」(某関係者)
- 15

- Bunkyo Univ. Koshigaya Library
- ### 業務委託で発生していること(つづき)
- 大学が業務委託とどう向き合うのかは、大学および大学図書館が学習・教育・研究において図書館サービスのレベルをどこに設定するかでスタンスが決まる。
 - 図書館が一定以上の業務レベルを委託会社に求めるのであれば、委託業務の仕様書にその品質維持の内容と評価方法が明示されてしかるべきである。
 - 仕様書を書ける図書館(員)は少ない(某関係者)
 - 大学経営層は、図書館業務が職員数を削減して業務委託でき、補助金も獲得できることを知りつつある(委託会社からもコンサルテーションされている)。
- 16

- Bunkyo Univ. Koshigaya Library
- ### 業務委託で発生していること(つづき)
- 業務委託による問題は短期的には顕在しない。むしろ、カウンター対応がよくなったとか、開館時間・日数が拡大されて評判は悪くない。しかし、関係者には消耗感が...
 - 単なる経費削減は、委託会社とその就業者を消耗させるだけで持続的なパートナーシップの維持は無理。'窮鼠猫をかむ'の譬えで、「偽装請負」等で問題が大学の外に出てゆくりリスクを大学は見ておくべき。
- 牛崎進「大学図書館アウトソーシング活用」図書館総合展2007フォーラム
NPO大学図書館支援機構 資料より 一部鈴木が加筆(アンダーラインの部分)
- 17

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

2. 私立大学図書館の経営資源

18

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

ヒト(処遇)

- 私立大学図書館で働く職員：
 - その学校法人の専任職員
 - 契約職員(非常勤職員)
 - 嘱託職員
 - 派遣職員
 - 業務委託契約により働く職員
 - アルバイト
(→多様化, 労務管理にかかる負担の増大)
- 専任職員が図書館専門職として雇用されるケースは極めて少ない。事務職員として採用され、配属先のひとつとして図書館がある。
- かつては、人事異動は緩やかに行われ、明文化された規定はないものの、図書館司書は図書館外へ異動しないという「不文律」を持った大学も少なくなかった。

19

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

ヒト(処遇:つづき)

- しかし大学の経営環境の変化等により図書館も人事異動該当部署として例外ではなくなった。
 - そのことによるメリット/デメリット(デメリット/メリット)
- 「その学校法人の専任職員」という立場/職業としての図書館員という立場。
- 人事マネジメントの一環として、キャリアパスを考慮した処遇が求められる(図書館員に限らず)。

20

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

ヒト(研修)

- NII等の外部研修
- 私立大学図書館協会東地区部会研究部**研究分科会**
 - 現在14分科会が活動中
 - 2年1期, 月1回の例会, 研究発表会, 研究報告の刊行 等
- 私大協による海外研修の実施(報告は『大学図書館研究』『私立大学図書館協会会報』で)
- あとは自助努力:IT, 外国語能力, 大学院, 各種研究会参加, 研究団体への加盟 etc

21

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

モノ(図書)

	図書(1大学あたり)			
	国立		私立	
1997	859,747	1.00	296,824	1.00
1998	878,604	1.02	299,576	1.01
1999	902,681	1.05	294,480	0.99
2000	911,260	1.06	298,043	1.00
2001	923,354	1.07	300,412	1.01
2002	958,617	1.11	304,641	1.03
2003	1,052,924	1.22	304,192	1.02
2004	1,067,895	1.24	303,586	1.02
2005	1,081,945	1.26	304,291	1.03
	(冊)		(冊)	

(各年度末現在)

22

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

モノ(雑誌)

	雑誌(大学あたり)											
	全体		洋雑誌				電子ジャーナル					
	国立	私立	国立	私立	国立	私立	国立	私立				
1997	13,357	1.00	3,509	1.00	5,705	1.00	1,117	1.00	22	1.00	10	1.00
1998	13,753	1.03	3,750	1.07	5,763	1.01	1,267	1.13	31	1.41	30	3.00
1999	14,173	1.06	3,498	1.00	5,886	1.03	1,127	1.01	198	9.00	83	8.30
2000	14,629	1.10	3,408	0.97	6,029	1.06	1,075	0.96	550	25.00	171	17.10
2001	16,215	1.21	3,599	1.03	6,958	1.22	1,176	1.05	1,732	78.73	277	27.70
2002	15,809	1.18	3,416	0.97	6,419	1.13	1,066	0.95	3,505	159.32	436	43.60
2003	18,098	1.35	3,401	0.97	7,232	1.27	1,072	0.96	4,883	221.95	716	71.60
2004	18,671	1.40	3,417	0.97	7,474	1.31	1,043	0.93	5,797	263.51	1,230	122.99
2005	19,267	1.44	3,525	1.00	7,717	1.35	1,115	1.00	6,387	290.32	1,615	161.50

(タイトル) (タイトル) (タイトル) (タイトル) (タイトル) (タイトル)

(各年度末現在)

23

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

カネ

- 予算の頭打ち・減少
 - 拡大する資金需要に対応し切れていない(資料購入, 電子ジャーナル, 設備投資等)
 - 機械類が増えたため, 保守契約に係る経費も増大
 - 電子ジャーナルについてはコンソーシアム(公私立大学図書館コンソーシアム:PULC)の形成によって対応
 - 現在の価格モデル, 契約モデルがいつまで続くのか...
 - 各種補助金獲得の努力を強化

24

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

カネ(つづき)

	国立(1大学あたり)			私立(1大学あたり)		
	図書館総経費(A)	大学総経費(B)	A/B	図書館総経費(A)	大学総経費(B)	A/B
1997	500,644	19,406,556	2.60%	268,890	6,277,426	4.30%
1998	507,228	20,847,659	2.40%	265,522	6,209,956	4.30%
1999	517,909	20,678,002	2.50%	265,529	6,081,264	4.40%
2000	496,193	20,576,933	2.40%	239,174	5,868,986	4.10%
2001	482,701	20,245,078	2.40%	228,158	6,090,830	3.70%
2002	492,393	21,115,902	2.30%	217,603	5,801,714	3.80%
2003	535,334	23,781,165	2.30%	214,267	5,724,965	3.70%
2004	509,407	24,655,747	2.10%	241,540	6,058,077	4.00%
2005	489,227	28,705,087	1.70%	211,703	6,052,843	3.50%

図書館総経費＝資料費＋図書館・室運営費 (単位:千円)

25

- Bunkyo Univ. Koshigaya Library
- ### サービス
- 地域コンソーシアムの形成
 1. 山手線沿線(青山学院, 学習院, 国学院, 東洋, 法政, 明治, 明治学院, 立教) ■
 2. TAC:多摩アカデミックコンソーシアム(ICU, 国立音大, 東経大, 津田塾大, 武蔵野美大)
 3. 大学コンソーシアム京都(財団組織, 大学・短大等66団体が加盟(2007/6現在))
 4. 横浜市内大学図書館コンソーシアム(市内14大学加盟) 等
 - 図書館の公開
 - 高校生(受験生)への開放も ■
- 26

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

3. 一私立大学図書館の現状と課題

27

- Bunkyo Univ. Koshigaya Library
- ### 図書館の概要
- 1981年10月 現図書館開館
 - 当初から学外者にも開放(学生とほぼ同じ条件で利用可)
 - 児童文庫(あいのみ文庫)の開設
 - 蔵書:約380,000冊
 - 職員
 - 専任職員:9名(館長補佐:1名, 業務主管:2名, 司書:6名)
 - 契約職員:17名(ただし, ほとんどが短時間労働)
 - 派遣職員:4名
- 28

- Bunkyo Univ. Koshigaya Library
- ### 図書館が置かれている状況
- 予算は・・・
 - 極端な減少はないものの増えない。もともと潤沢とはいえない(人件費を除いた経費:約56,805,000円, うち資料費24,310,000円, DB,EJ:約22,118,000円)
 - ※DB/EJ関係は2008年度より2館(越谷・湘南)を一本化した
 - 「事務局図書館課」の予算として措置される。
 - 予算措置の方法は大学によって千差万別
 - 人は・・・
 - 毎年出る退職者。減員が続く。(限界集落?)
 - 組織は・・・
 - 新しい環境(フルタイム職員の減少, 新しいサービス・事業への対応)に適合するための組織実現の必要(この数年は過渡期)。
 - 建物は・・・
 - 狭隘化がきわまる。収容能力の増強, 新しいサービスを可能にするための措置が必要。
- 29

- Bunkyo Univ. Koshigaya Library
- ### 当館の特徴
- 1981年の開館以来,
 - 学習図書館としての充実
 - 図書館蔵書は図書館員が選書
 - 全面開架方式
 - 利用ガイダンスの充実(1988年度から4年生を対象としたゼミガイダンスを実施)
 - #1992年からは他学年にも実施
 - 開かれた図書館
 - 学外者への開放(学生とほぼ同じ条件での利用が可能)
 - 児童文庫活動(あいのみ文庫)
- 30



Bunkyo Univ. Koshigaya Library

これまでの活動の評価とこれから(前館長によるコメント)

- これまでの活動の評価
 - 学習図書館としては一定の評価を得ている。が、このままでは不十分
 - これからの大学の生き残りのためには、入ってきた学生に力をつけて送り出すことが必要。そのコンテキストの中で図書館は何をなすべきかを考えなくてはならない。
- 学習図書館としての一層の充実
 - 学習スペースの確保(デジタル・コンテンツ環境への対応)
 - 時間延長のための組織(現在は平日20:00, 土曜日16:00)
 - 学習参考図書_{の整備} テキスト類の確保
⇒場所(環境)と資料の充実

32

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

これまでの活動の評価とこれから(つづき)

- 研究図書館としての充実
 - オンラインジャーナルの拡大・利便性
 - ILL(大学図書館間の協力)
 - 利用可能図書の拡張 開架・閉架方式の見直し
⇒文献(資料)提供能力のさらなる充実
- 情報発信
 - 紀要のオンライン化の充実
 - 出版事業(本、およびオンライン)
 - 教材
 - 書籍のデジタル化
⇒デジタル化、ネットワーク化した環境における図書館サービスの可能性の追求

33

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

何が必要か

- 施設設備の充実
 - 利用教育実施のための施設
 - 館内に「電子情報閲覧室」設置(2007年度から 席数52)
 - 通常は学内LANに接続したコンピュータのある「閲覧席」(紙資料も電子資料も:ハイブリッド環境への対応)
 - 必要のあるときにはセミナールームとして使用

「ラーニングcommons」にはなっていないが...
- 図書・雑誌収容スペース
 - 妙案は今のところなし(>_<)

34



Bunkyo Univ. Koshigaya Library

何が必要か(つづき)

- 予算の枠組みの見直し
 - 電子ジャーナル、オンライン・データベースへの依存度の増加(促進) STOCKからACCESSへ
 - これまでのように図書館(課)予算として計上し維持していくのは不可能
 - 図書館予算は、学生の利用できるものへ重点配分
 - 紙メディアと電子メディアの決定的な違い⇒共有できること
⇒予算を全学共通経費化へ
 - 2008年度は2つの図書館(越谷・湘南)の電子資料関係予算を1本化し、「電子情報利用料」という支出科目を設けた。
 - 学術情報基盤整備への理解の程度
 - 学部による温度差

36

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

何が必要か(つづき)

- 業務組織の見直し
 - 専任職員の減少は避けられない
 - どこかで歯止めをかけなくてはならないが...
 - 組織のスリム化
 - 業務組織の統合(特に整理部門)による、少人数での業務遂行が可能となる組織への再編
 - 業務の簡素化
 - 不要な仕事/専任以外に任せられる仕事/新しい仕事
 - 業務委託の拡大(は避けられない)
 - 「専任職員がすべき業務」の明確化
 - どれほどの仕事があり、何人の専任(定数)が必要なのかを明確にしておくはならないが...
 - (レファレンス、利用者教育を中心とした)利用者サービスへのシフト

37

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

何が必要か(つづき)

- 教育活動との密結合
 - 日本においては、図書館が「独自に」活動しても多くの成果を期待することはできない
 - 教育活動のコンテキストに図書館は組み込まれていない
 - 大学の教育活動の中にどれだけ図書館の活動を組み込むことができるか、が勝負
 - その鍵としての「利用者教育」(⇒図書館利用の「種まき」)、「情報リテラシー教育」
 - 図書館員は大学(教員)の教育活動を、学生の学習活動を、大学院生の研究活動を、どれほど知っているのか？(自信ありますか?)
 - シラバス、授業見学、先生・学生との雑談 etc

38

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

当館の財産・アドバンテージ

- 学生の量的図書館利用はそれなりに高い水準にある
- 利用教育にはそれなりに力を入れており、教員から一定の認知を受けている
 - 新入生ガイダンス:対象者の91%に実施(2007年度)
 - オリジナルビデオによる
 - 文献検索ガイダンス:58回、716人に対して実施(2007年度)
- 電子メディア(特に電子ジャーナル)の導入は、図書館に無関心だった教員の関心を一定程度ひきつけるようになった
- 大規模大学ではない(⇒利用者5,000人だからできることがある)

39

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

貸出冊数の推移(正規学生・院生)

年	貸出冊数	1人当
1993	43,111	11.7
1994	53,050	14.0
1995	54,806	14.6
1996	53,752	14.2
1997	58,103	15.3
1998	58,727	14.6
1999	65,318	15.5
2000	68,538	15.6
2001	67,881	14.9
2002	69,290	15.3
2003	81,251	17.2
2004	87,426	17.9
2005	89,043	17.6
2006	86,208	16.5
2007	84,762	16.3

40

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

戦略1: 利用教育の充実

- 利用者が自立して図書館を利用できるためのスキルの養成
- 計画的な利用教育
 - (たとえば)学部4年間を見通した、情報リテラシー育成のためのプログラムの立案、協議、実施
 - 教員との共同作業
 - 「なんとなく検索はできる」状態の広がり⇒そのレベルからの脱却
 - 学生の「学びの技法」(自らの課題を自らの力によって解決できる能力)の習得支援⇒満足感、達成感

41

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

戦略2: 情報通信技術活用によるサービスの拡大

- リモートサービス
- 「マイライブラリ」は重要なポータルとなりうる
 - これもインストラクションなしでは活発な利用には結びつかない
 - より充実した機能とそれを利用しつづけるための業務体制(ex. 学内に向けた資料・文献デリバリー体制)の整備
- リモートサービス拡大による効果:業務量の縮小(同水準の業務負担での処理可能量の増加)
 - 予約、文献複写依頼(利用者自身による操作・入力)
 - リンクリゾルバによるナビゲーション(ILL依頼のキャンセル率低下を目指して)

42

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

戦略2: 情報通信技術活用によるサービスの拡大

- 機関リポジトリ構築事業
 - 地域連携リポジトリ(埼玉大学との共同事業 今年度から)

m(_)_m

- 大学からの情報発信と社会貢献
- 学内での存在価値の向上

<余談>
 かつてNACSIS-CAT/ILLにはほとんどすべての大学が参加した。機関リポジトリ構築事業は？
 → ここでも二極分化か？(大学・図書館の「体力差」)

43

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

戦略3: 顧客のリピータ化: 長ーいお付き合いを

- 卒業生・退職教職員へのサービスの拡充
 - 現在も「校友」としての登録により利用可能
 - 一般学外者とのサービスの差別化
- 非来館型サービスの拡大(これもマイライブラリが重要な手段となる)
 - 遠隔地に住む卒業生への資料提供
 - 利用者コミュニティの拡張
- 「通過者」から長期のおつきあいをする「顧客」へ

44

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

私的つぶやき...

- 大学図書館は財政的に自立した組織たりえない
 - 親機関(大学, 法人)の存在が不可欠
- 親機関(の活動)への貢献が求められる
 - 教育, 研究, 学習, (スタッフの)業務
 - 必要な存在であればそのように処遇されるし, 不要と判断されれば切り捨てられる。
- 働く者にとって働きがいのある場所であってはならない(モチベーション, インセンティブ)
- 「生き残るのは強いものではない。生き残るのは環境の変化に適応するものである。」(ダーウィン)
- しかし, 図書館の普遍的ミッションはあるはず...

45

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

(補論)これからの大学と大学図書館

- これからの時代, 「大学図書館」は一括りで語りうるか?
 - 数ある「大学」の役割分担の進展
 - 研究中心大学, 教育中心大学, 専門学校的大学 etc
 - 図書館の役割・活動は, 親機関の目的, コミュニティの性格等に影響を受ける

46

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

これからの大学と大学図書館(つづき)

- 大学自体が「個性化」を求められている(みずからのアイデンティティの確立が必要)
 - 図書館も「個性化」(アイデンティティの確立)が必要
 - そのために必要な「マネジメント」
 - 「右に倣え」ではない, 個性的, 斬新なサービスの開発の必要
 - これも専任職員の重要な役割のはず
 - そのために必要な図書館システム(「業務管理システム」から「サービス提供システム」へ)

47

Bunkyo Univ. Koshigaya Library

これからの大学と大学図書館(つづき)

- 図書館協力の枠組み
 - 従来は設置母体が基本であった。
 - 今後は設置母体を超えた, 別の要因による協力関係の構築が必要となる。
 - 地域
 - 主題
 - 異なった館種 etc

48